

「政治判断で開門調査も」

諫干検討委
大久保議員
環境アセス関係なく

国営諫早湾干拓事業
(諫干)の開門調査を
巡る問題で、政府・与
党の諫早湾干拓事業検
討委員会メンバーであ
る民主党の大久保潔重
参院議員(長崎選挙区)
は18日、毎日新聞の取
材に「国が進める環境
アセスメントに関係な
く、政治主導で開門調
査を実施することはあ
り得る」と述べ、国が
防災対策に万全を期す
ことを条件に、環境ア
セスの結果にかかわら

ず開門調査を認める可
能性を示唆した。

いいと思う」と語った。
大久保氏は、2月に

大久保氏は「防災機
能保持は、干拓地周辺
に住む諫早市民にとっ
ては大切なこと」と前
置きしつつ「政権交代
しても諫干への考えが
変わらないのはおかし
いのではないか。開門
への世論が高まり補償
問題や防災などへの対
策を国が万全に取れる
なら、政治判断で(環境
アセス結果にかかわら
ず)開門調査をしても

開門賛成に転じた同県
雲仙市の瑞穂漁協の漁
民と、数年前から話し
合いを継続してきた。

有明海の異変を調べる
ためにも、開門調査は
必要との認識が芽生え
てきたという。

民主党長崎県連はこ
れまで開門反対の立場
だったが、県連内では
他にも開門に前向きな
考えを示す動きが出て
いる。【柳瀬成一郎】